

呉望舒

(上智大学大学院)

要旨

日本人を対象とする中国語教育の音声面において、有気音と無気音との対立の習得が困難だと知られている。日本人中国語学習者が発した有気音は中国語母語話者にとって無気音に聞こえることが多く、母語話者が発した無気音は学習者にとって有気音に聞こえる傾向がある(朱, 1997)。

この問題点は中国語の音声の表記法「拼音」(ピンイン) とほかの日本語にない音韻要素などが原因とされ、中国語の教育現場ではさほど重視されていない。現在多用される矯正法も望ましい結果を得られなかった(朱, 2010)。

本発表は、日本人中国語学習者が中国語の有気音と無気音に対する知覚と産出の問題を巡って、VOT の視点(Lisker, 1964 など) から見た中国語の有気と無気の対立(席, 2009) と日本語の有声と無声の対立(高田, 2011) をふまえて、知覚実験と産出実験を行った。

知覚実験は、母語話者男女1名ずつが読み上げた表Iの有気音を基にし、作成したVOTの連続体を被験者に聞かせ、同定課題を行った。同定実験の結果で各習熟度の学習者と母語話者が刺激音を有気音と判断する確率を計算し、図1～図3のようにそれぞれが持つ中国語破裂音に対するカテゴリーを分析した。産出実験は、被験者に表Iのリストを3回読ませ、破裂音のVOTの長さを測り、図4～図7のようにまとめて示した。

両実験の学習者と母語話者のデータを比べることで、大まかに(1)中国語破裂音に対する知覚も産出も、学習者は母語話者と一定の差がある、(2)習熟度の向上につれ、学習者の知覚はだんだん母語話者に近づく傾向がある、(3)産出はどの習熟度でも個人差による影響が激しいと言えるのであろう。

最後に、観察された学習者の問題をまとめ、教育現場で有気・無気の対立をより重視する必要性と今後注意すべきポイントを論ずる。

表I

有気音			無気音		
単語	ピンイン	IPA (声調略)	単語	ピンイン	IPA (声調略)
咋的一声	kā de yì sheng	/k ^h a tɿ i ɕəŋ/	嘎的一声	gā de yì sheng	/ka tɿ i ɕəŋ/
哭着	kū zhe	/k ^h u tɕy/	估着	gū zhe	/ku tɕy/
趴着	pā zhe	/p ^h a tɕy/	扒着	bā zhe	/pa tɕy/
铺着	pū zhe	/p ^h u tɕy/	逋着	bū zhe	/pu tɕy/
塌着	tā zhe	/t ^h a tɕy/	搭着	dā zhe	/ta tɕy/
秃着	tū zhe	/t ^h u tɕy/	嘟着	dū zhe	/tu tɕy/

知覚実験

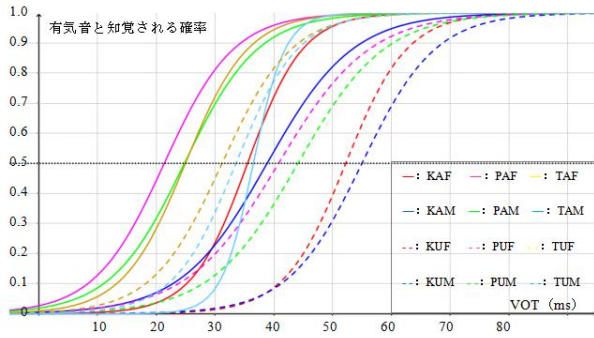


図 1. 母語話者のカテゴリ知覚曲線

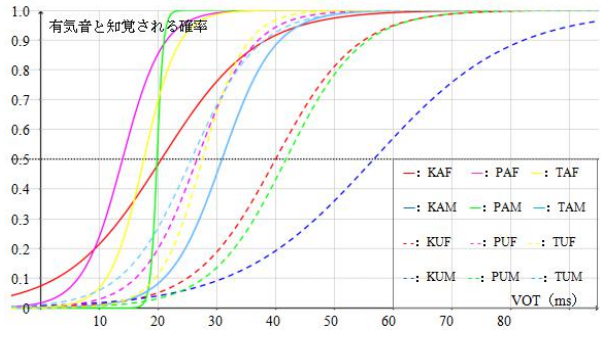


図 2. 上級学習者のカテゴリ知覚曲線

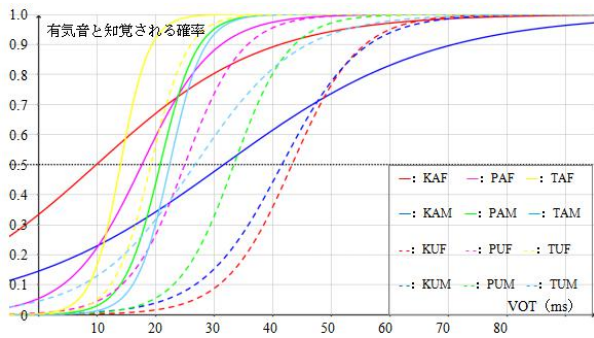
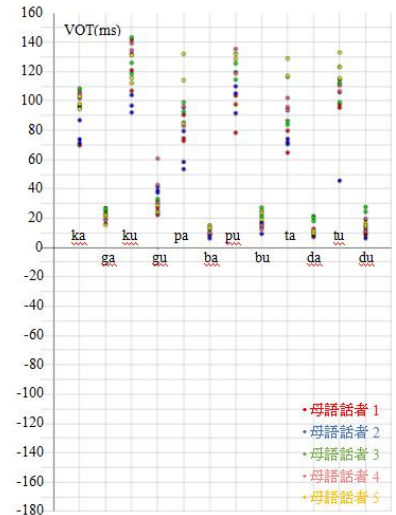


図 3. 中級学習者のカテゴリ知覚曲線

図 4. 母語話者の産出実験結果



産出実験

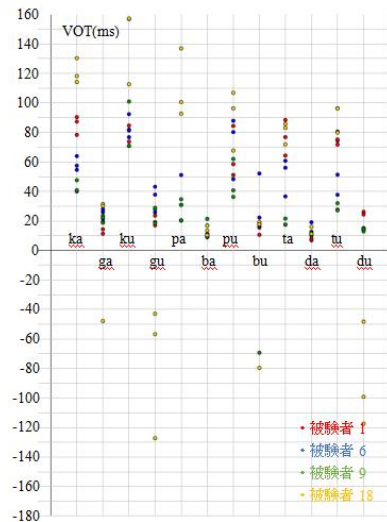


図 5. 上級の産出実験結果
主たる参考文献:

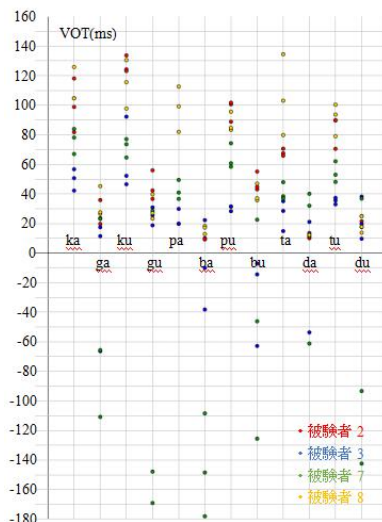


図 6. 中級の産出実験結果

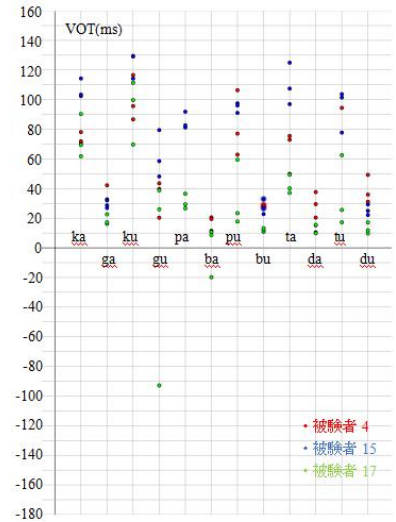


図 7. 初級の産出実験結果

Lisker L, & Abramson AS. (1964). A Cross-Language Study of Voicing in Initial Stops: Acoustical Measurements. *Word*, 20(3), 384-422

朱春躍 (2010) 『中国語・日本語音声の実験的研究』くろしお出版社

高田三枝子 (2011) 『日本語の語頭閉鎖音の研究-VOT の共時的分布と通時的変化-』

席洁, 姜薇, 张林军, 舒华 (2009) 「汉语语音范畴性知觉及其发展」『心理学报』, 41(7), 572-57

朱川 (1997) 『外国学生汉语语音学习对策』语文出版社